

# 日本健康心理学会

## 第10回記念大会



発表論文集



筑波大学東京キャンパス  
1997年10月26日・27日

1997年10月26日・27日(筑波大学東京キャンパス)

## Health Locus of Control の発達の變化 - 小・中学生の場合

○吉田 由美 (東邦大学医療短期大学) 高木順文 (文部省統計数理研究所)  
稲葉 裕 (順天堂大学医学部衛生学)

## 【はじめに】

Health Locus of Control (以下 HLC 時) は健康行動の実行や継続を規定する要因の 1 つである。従って、健康教育を考える上で有用な概念である。著者らは 1991 年に小学校 3 年生であった児童を対象に、日常の予防的健康行動と HLC に関する縦断的な調査を実施している。今回は、小学 3 年生時点、小学 6 年生時点、中学 3 年生時点の HLC 調査結果から、セルフケア行動との関連が指摘されている Internal HLC を取り上げ、その発達の變化について報告する。

## 【方法】

1991 年に山梨県内の 3 つの小学校の小学 3 年生を対象とした第 1 回の集合調査を実施した。3 年後、6 年生時点(1994)で第 2 回の調査を、さらに 3 年後、中学校 3 年生時点(1997)で第 3 回の調査を実施した。3 回とも結果の得られた、男子 94 名、女子 98 名、合計 192 名を分析の対象とした。HLC 尺度は Parcel & Meyer の Children's Health Locus of Control Scale の翻訳版を用いた。Parcel & Meyer は尺度作成過程で internal-external の一次元で得点化を行ったが、最終的に因子分析を行い、3 次元化する方向を示した。そこで、先行研究<sup>1)</sup>において妥当性を確認したので、3 次元で用いることにした。項目毎に「はい」「いいえ」で回答を得、肯定のみに 1 点の配点を行った。3 つの下位尺度、Internal HLC、Powerful Others HLC、Chance HLC 毎に合計し、各々 HLC 得点、PBLC 得点、CHLC 得点とした。今回は、Internal HLC について報告する。

## 【結果】

小 3 時点、小 6 時点、中 3 時点の HLC 下位尺度得点の男女別平均値と Wilcoxon の符号付き順位検定の結果を表 1 に示した。男子の場合、小 3 時点の平均値は 4.6 (標準偏差(BSD)時)は 1.3、小 6 時点では平均値は 5.2 (SD 1.1)であり、順位検定の結果、有意差が認められ、小 3 時点よりも小 6 時点の方が得点が高かった。小 6 時点と中 3 時点では有意差は認められなかった。女子の場合、小 3 時点の平均値は 4.8 (SD 1.2)、小 6 時点では平均値は 5.3 (SD 1.0)であり、順位検定の結果、有意差が認められ、小 3 時点よりも小 6 時点の方が得点が高かった。また、男子の場合と同様、

小 6 時点と中 3 時点では有意差は認められなかった。

## 【考察】

男女とも小 3 時点に比べて、小 6 時点が有意に高く、Internal 傾向の上昇が認められた。HLC の基である一般的な Locus of Control の小児期の発達の變化に関する研究の結果は必ずしも一定していない。Veisz & Stipek<sup>2)</sup> は 33 の文献を総覧して、測定尺度が肯定か否定で回答する場合には Internal 傾向の上昇を報告した研究が多く、段階測定法で回答する場合には有意差なしの研究結果が多いとしている。これらの研究のほとんどは断面調査に基づいているが、Sherman<sup>3)</sup> は縦断的調査を行い、年齢とともに Internal 傾向が上昇したと報告している。また、神田<sup>4)</sup> は日本における研究は少ないが、年齢とともに Internality の減少傾向がみられるとしている。鎌原ら<sup>5)</sup> も学年があがるにつれて外的統制の方向に変化する傾向を示唆している。しかし、いずれも対象として中学生以降の年齢の者が含まれた結果である。樋口<sup>6)</sup> 鎌原ら<sup>7)</sup> は、小 3 から小 5 までは Internal 傾向の上昇を、中学、高校、大学生では Internal 傾向の減少を報告している。また、小 3 から中 3 までを調査し、中 1 までは Internal 傾向の上昇を示し、それ以降は減少するとしている研究もある。さらに、小 4 から中 3 まで調査し、小 6 までは Internal 傾向の上昇を示し、それ以降は減少するとする研究がある。これらの報告から、わが国では、小 3 以降から Internal 傾向が上昇し、小 5 から中 1 頃にピークを迎え、その後は大学生に至るまでは減少していくと考えられる。本調査では小 3 時点に比べて、小 6 時点は HLC の Internal 傾向の上昇が認められ、これに一致している。しかし、小 6 時点と中 3 時点では有意差がなく、横ばい状態で Internal 傾向の減少は認められなかった。

## 【文献】

- 1) 神田 隆夫 Health Locus of Control と健康行動に関する研究、小児健康心理、1990;8(2):45-63.
- 2) Veisz JR, Stipek DJ. Competence, Contingency, and the Development of Perceived Control. *Hum Dev* 1982;25:250-281.
- 3) Sherman LM. Development of children's perceptions of internal locus of control: A cross-sectional and longitudinal analysis. *J of Personality*. 1984;52:338-354.
- 4) 神田 隆夫 Health Locus of Control と健康行動に関する研究、小児健康心理、1990;8(2):45-63.
- 5) 神田 隆夫, Locus of Control と健康行動に関する研究、小児健康心理、1987;35(2):177-183.
- 6) 樋口 敏夫, Locus of Control と健康行動に関する研究、小児健康心理、1978;4:408-409.

表1 小3、小6、中3時点のIHLIC得点の平均値

| IHLIC<br>得点 | 男子       |       | 女子       |       |
|-------------|----------|-------|----------|-------|
|             | 平均値(標準差) | p値    | 平均値(標準差) | p値    |
| 小3時点        | 4.6(1.3) | 0.001 | 4.8(1.2) | 0.000 |
| 小6時点        | 5.2(1.1) | 0.125 | 5.3(1.0) | 0.571 |
| 中3時点        | 5.4(0.9) |       | 5.2(1.2) |       |

検定は Wilcoxon の符号付き順位検定を用いた

図1 IHLIC得点分布

